新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

【専修大学北上高等学校】
普通科
ディープラーニングコース
アクティブラーニングコース

２０２２年度活動概要

管理機関名：**学校法人北上学園**

はじめに①　本校のスクールポリシー

本校は、建学の精神と校訓に基づき、全教員による対話をもとに、２０２１年にスクールポリシーを策定しました。

〇建学の精神
報恩奉仕　「様々な恩に報いて、社会に奉仕する人格を形成すること」

〇校訓
質実剛健　「飾り気がなく、まじめで強くたくましい姿」
誠実力行　「まじめに目標に向かって努力し続ける姿」

＜アドミッション・ポリシー＞
本校はディプロマポリシーに基づく人材を育成するため、以下の姿勢を持つ生徒を入学者として認めます。
・常に新しい知識や経験を得ようとする姿勢
・身に着けた知識や技術を活用し、地域・世界をよりよくしようとする姿勢
・ちがいに対して偏見を持たず、さまざまな人とつながろうとする姿勢
・自らの理想をもち、その実現に向けて挑戦しようとする姿勢

＜カリキュラム・ポリシー＞
高校３年間でディプロマポリシーに基づく力を育てるために、以下の教育内容を実践します。
・教科学習では、知識・技能に加え、その知識・技能を社会や世界につなげる「未来を創る力」を高める授業を実践します。
・地域社会と有機的につながり、これまで学んできたことを活用し、未知へ対峙する力を養います。
・様々な違いに対して、ＩＣＴを含めた知識・技術を活かし、それぞれが自分らしく学べる学修を行います。
・課程内・課程外を問わず、ひとりひとりが常にチャレンジする機会を設け、よりよく生きるための挑戦を支援します。
・常に「自分軸」を大切にし、自分らしいキャリアの実現に向けた支援を行います。

＜ディプロマ・ポリシー＞
本校は卒業所要単位を取得し、学修成果として次の能力を得られた者を卒業として認定します。
・地域、そして世界の様々な課題に対して、常に当事者意識を持ち、解決に向けて向き合う力
・多様なちがいを尊重し、だれとでもつながることができる力
・健全な心身のもと、自分の資質をより伸ばそうとする力
・将来の夢の実現に向け、深く考え行動できる力

はじめに②　本校の考える「普通科改革」とは

普通とは何か。 私たちがスクールポリシーの検討から導き出した「普通」とは、

- **さまざまなちがいがある生徒が集まり、**
- **それぞれの自分の学びたいを見つけ、**
- **多様な学びたいを共有し、深め合いながら、**
- **未来に向かって自分らしく成長していく**

ことであると考えます。

「普通」とは一般的であるということではなく、「多様な学びの生態系がある環境」を指します。
ひとりひとり個性の異なる高校生が、その個性を生かした学びを、自分らしく進めていく。
私たちは、そもそも当然であってほしいこの「普通の学び」を以下の３つの柱をもとに進めていきます。

専北の「学び」 3つの柱 ～未来を創る力へ～

ダイバーシティラーニング

多様な視点・それぞれのちがいを大切にした学び

アクティブラーニング

学ぶことそのものを楽しみ
豊かな出会いの中で
前向きにチャレンジする学び

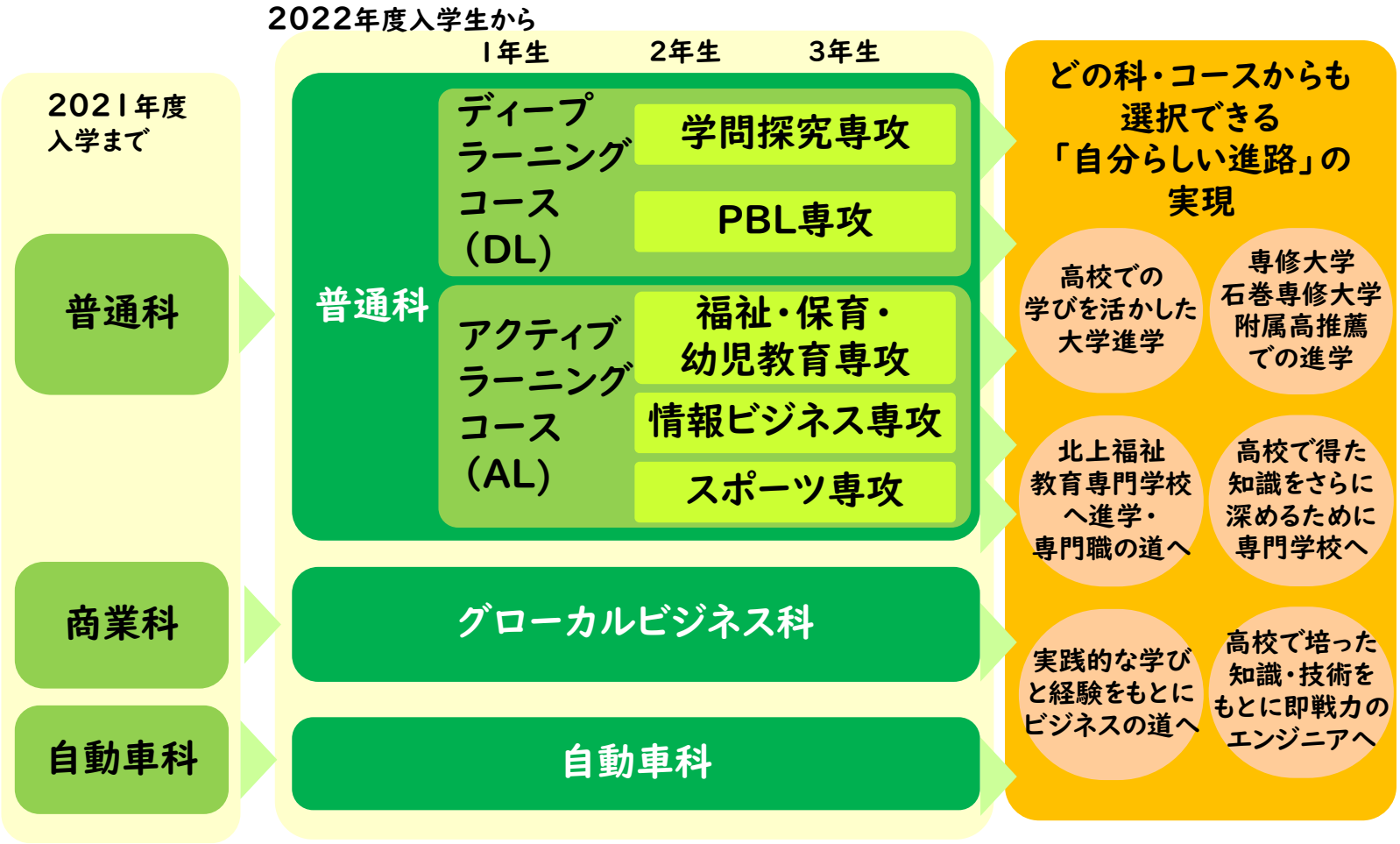
ディープラーニング

自らが課題の本質を見出し、
解決に向けた具体的な行動に
つながる学び

はじめに③　新しい普通科の実現へ

本校はスクールポリシーの実現のために２０２２年度より、普通科をディープラーニングコース、アクティブラーニングコースの２コース制にコース改編しました。

改編のポイントは、生徒ひとりひとりの「未来を創る力」を育むことです。そのためには、①自分の学びたいことを自律的に深められる　②学びたいことと地域・世界がつながり学ぶことの意味が見える　ことが大切であると考えます。そのため、１年次から自走を前提とした取り組みを展開します。



はじめに④　本補助事業の目的

本校の新しい普通科のキーワードは「未来を創る力」です。

これからの未来、気候変動、地域の人口減少、グローバル化、新しい産業技術による働き方・暮らし方の変化、国際情勢の不安、様々なウィルス等の公衆衛生的不安など、多くの未知が生まれてくることが予想されます。

この大きく変化する社会の中で、これまでの経験・得た知識、そしてこれから学びたいことをつなぎあわせ、未知に対して向き合い、納得解をつくることのできる力を「未来を創る力」と定義します。

本校では、新時代に対応した高等学校改革推進事業において、この「未来を創る力」を育む基盤を構築することを目的として、地域の様々なステークホルダーの皆さま、そして専門的な研究機関の皆さまと協働で構築していきます。

取り組み①：高校職員研修における対話の場・学びの場づくり

取り組み②：ＤＬコースおよびＡＬコース各専攻におけるカリキュラム開発

取り組み③：ＤＸによる学びの深化と負担軽減（本校独自事業）

取り組み①：高校職員研修における対話の場・学びの場づくり

本校の新しい普通科のキーワードは「未来を創る力」です。

これからの未来、気候変動、地域の人口減少、グローバル化、新しい産業技術による働き方・暮らし方の変化、国際情勢の不安、様々なウィルス等の公衆衛生的不安など、多くの未知が生まれてくることが予想されます。そのため、教員自身も常に学び続ける必要があると考え、月１回の職員研修を定例的に実施しました。

年間の研修の主題は、ルーブリックで定義した８つの力をもとに、各教科の特性を活かし、自分が担当する教科はどんな力を伸ばすのか、そのためには何が必要になるのかを検討し対話しながら、授業改善につなげていくことです。

そのためのツールとしてシラバスを大幅に改善し、なぜ学ぶのかを双方向で共有しながら、自律的な学びにつなげます。

取り組み①：高校職員研修における対話の場・学びの場づくり	
研修①「主体的な学び」を考える	5月11日(水)14:00～15:30
研修②「主体的な学びと部活動改革」	6月13日(月)13:00～14:30
研修③「授業改善の実践状況・次に向けた視点とは」	7月14日(木)15:00～16:00
研修④「生徒の主体的な学びに向けた業務改善」	8月18日(木)9:00～10:30
研修⑤「主体的な学びと部活の関係を考える」	9月12日(月)13:00～14:30
研修⑥「学校改革に向き合うとは」	10月11日(火)14:00～15:30
研修⑦「授業評価を考える」	11月10日(木)14:00～15:30
研修⑧「学校改革と伝える技術・プレゼンテーション」	12月13日(火)14:00～15:30
研修⑨「デジタルツールを活用した業務改善」	1月10日(火)9:00～10:30
研修⑩「シラバスを活用した主体的な学びの推進」	2月21日(火)14:00～15:30
研修⑪「主体的な学びとデジタルツールの活用」	3月17日(金)14:00～15:30

取り組み①：「なぜ学ぶか」「どう学ぶか」の共有

アドミッション・ディプロマ・カリキュラムの３つのポリシーを明確化し、さらにディプロマ・ポリシーに基づき８つの力を定義することで、そもその何のために、何を行っているかという部分の共有化を図っています。
そしてこれは概念的なものばかりではなく、教科や部活動、さまざまな課内・課外の活動で紐づけることで、「何のために学ぶのか」、「そのためにはどのように学ぶのか」を教員と生徒の間で認識を共有することにつなげていきます。
そもそも本校のシラバスは教科による項目の編集や運用面（例えば生徒とのシラバスを通したコミュニケーションの方法等）の認識のちがいがあり、本来の目的を果たしていませんでした。
そのため、２０２２年度からの新カリキュラムにおいては、これまで規定したDPに基づく８つの力をもとに、その教科はどのような力を育くむものであるのか、それぞれの科目ではその中でどの観点別にどの部分まで到達するのか、そのためにはどのような学習を行うのか、到達点に向け、互いにどのような評価を行うのかを明確化したシラバスフォーマットを構築しました。
このフォーマットをもとに作成したシラバス案は教員ワークショップで他教科からの視点も入れ、さらにブラッシュアップされ、授業時になぜ学ぶかを、どう学ぶかを共有するために活用しました。

校長による改革宣言
（みんなで改革を進めていくという方向性の共有）
↓
改革の軸となる理念の共有
「アドミッション・ポリシー」「ディプロマ・ポリシー」
「カリキュラム・ポリシー」
↓
理念実現に向けたアクションプラン策定
↓ ↓
普通科コース改革 ルーブリックの考え方を活かした8つの力の定義
↓ ↓
新課程に基づくカリキュラム構築 各教科・科目における評価体系の検討
↓
各教科・活動での実践

建学の精神	校訓	ディプロマポリシー	8
報恩奉仕 社会から得られる様々な恩恵に対し、感謝するとともにその真理を追究すること 育った環境に感謝し、培った自己の能力を社会に奉仕・還元しようとすること	質実剛健 飾り気がなく、まじめで強くたくましい姿 他者とのやりとりの中で、自己を知り、飾らず素朴・素直な姿勢で自他の幸福のために強くたくましく生きる姿	健全な心身のもと、自分の資質をより伸ばそうとする力	自律
			チャレンジ
		多様なちがいを尊重し、誰とでも繋がれる力	寛容性
			コミュニケーション
	誠実力行 まじめに目標に向かって努力し続ける姿 変化の激しいこれからの社会の中で、自己の使命を理解し、前向きによりよく生きようとする力	将来の夢の実現に向け、深く考え行動できる力	思考力
			創造力
		地域、そして世界の様々な課題に対して、常に当事者意識を持ち、解決に向けて向き合う力	社会に対する当事者性
			地域・世界の課題に関する知識・理解

令和４年度　シラバス　「科目名」※あくまで科目ごとに設定　授業開始時に配布・共有できるように

教科 科目		学　年 単位数		教科書 副教材	

<DP に基づく「※教科」で身に付ける能力・姿勢　※（例）卒業時までに身に付けてほしい「数学科」としての考え>

８つの力	AA　こうなれば素晴らしい	C　めず到達すべき事項

<この科目（例：このシートでいう数学Ⅰ）における到達点※学習目標>

知識 技能	
思考 判断 表現	
主体的 学習姿勢	

<この教科の学習方法　※高校生がわかるように>

授業における学習方法	
事前・事後学習 自己学習	※宿題を出す場合には、なぜ宿題が必要かを理解できるように記入 ※長期休暇中の宿題に関しても想定される内容および目的を記入 ※宿題等を出さない場合でも、自己学習においてこんなものを読むほうがよいなど、自立した学習を進めるための視点を記入

<この教科における評価方法>　３観点の到達目標を評価できる方法を明確化する
【学期ごとの評価】　※年間評価は各学期の平均値とする

観点別点数	評価方法および計算方法	項目合計点	合計
知識 技能	（例）毎週の小テスト　○点満点×○回 （例）定期テストの点数　○点×○○% １期・３期は○○○　２期・４期は○○○	点	１００点
思考 判断 表現	（例）○○○の○○○を評価　○点満点×○回	点	
主体的 学習姿勢	（例）授業でのふりかえりの質を評価　○点満点×○回	点	

評定：７５点以上⇒５　７４～６５点⇒４　６４～４５点⇒３　４４～４０点⇒２　３９点未満⇒１
各観点別評価：各項目の７５%以上の得点⇒A　同７４%～４５%⇒B　４４%未満⇒C

校訓
⇕
建学の精神
⇕
ディプロマ・ポリシー
⇕
８つの力
⇕
教科ごとの身に付ける力・姿勢
⇕
学年ごと・科目ごとに身に付ける力・姿勢
⇕
観点別による積み上げ型の評価
⇕
ひとりひとり・都度のセルフチェック

取り組み①：テーマ型での授業・探究スキル獲得にむけた研修

全教職員対象の学びあいによる研修の実施において、新たな視点の共有は、発想の幅をひろげる上でも必要だと考えます。
今年度は、４回、メンターおよび外部講師の方に来ていただき、それぞれの視点で情報提供をいただくとともに、それを各教員の授業や取り組みに活かすためのワークショップを行いました。

研修②「主体的な学びと部活動改革」
日時：６月１３日(月)13:00～14:30
講師：佐々木陽平さん（静岡聖光学園中学ラグビー部監督　中高統括）
内容：主体的な学び、探究的な学びを進めるためには、課外の多くの時間を割いている部活動の機能整理が必要不可欠です。１日９０分（冬季は６０分）という短時間かつ生徒主体の部活動を実践している静岡聖光学園ラグビー部の取り組みを参考に、本校の主体的な学びと部活動のあり方について検討しました。

研修③「授業改善の実践状況・次に向けた視点とは」
日時：７月１４日(木)１５：００～１６：００
講師：石川一郎さん（２１世紀教育機構理事）
内容：授業評価および授業改善のメンタリングも行っていただいている石川先生を講師に、これまで各教科の授業を実際に見学した中での気づきのフィードバックを行いました。その後、それぞれの教科の工夫を共有し、自分の担当科目における授業改善の次の一歩を検討しました。

研修⑥「学校改革に向き合うとは」
日時：１０月１１日(火)１４：００～１５：３０
講師：町支大祐さん（帝京大学教職大学院）
内容：本校の学校改革における教員の変容をインタビュー形式で継続的に評価していただいている町支先生を講師に、学校が変わることに対して、教員ひとりひとりがどのように向き合っていくのかについてワークショップを行いました。インタビューで得られた課題を共有し、学校改革にはフェーズがあること、そして役割もあることを共有し、学校がよくなるための全体的な過程をイメージし、そこから必要なことを出し合いました。

研修⑧「学校改革と伝える技術・プレゼンテーション」
日時：１２月１３日(火)１４：００～１５：３０
講師：小野田一樹さん（星の杜中学校高等学校 開校準備室長）
内容：この１年で入学希望者が２倍となった宇都宮海星学園（次年度より星の杜中学校高等学校）。その背景には生徒とのコミュニケーション、特に伝える技術がカギとなっていました。今回の研修では、生徒に伝えたいことが伝わるための技術を共有するとともに、主体的な学びにむけた望ましいコミュニケーションを考えました。

取り組み②：ＤＬコースおよびＡＬコース各専攻におけるカリキュラム開発

・２０２３年度よりＤＬコースＰＢＬ専攻の2年生は5単位の探究プログラムがスタートします。また、ＡＬコースでは３つの専攻それぞれで４単位の学校指定科目も開始します。今年度は、運営指導委員会のメンバーと教員が一緒にこのプログラム開発を実施しました。

・ＤＬコースＰＢＬ専攻は、２１世紀教育機構の石川一郎さんをメンターに、自らの学びを掘り下げ、それをもとに地域や世界の課題の解決につなげていく具体的なカリキュラムを構築しました。

・ＤＬコース学問探究専攻は、(株)ベネッセコーポレーション東北支社長の張乙清さんをメンターに、学際的視点に基づき、各教科の学びと社会をつなげられるカリキュラムの構築に向けた新しい評価体制の構築を行いました。

・ＡＬコース福祉・保育・幼児教育専攻では、本校ソーシャルワーカーで地域福祉の現場での活動も多い一般社団法人かんな社会事業事務所所長の高橋岳志さんにメンターをお願いし、地域福祉の実践者を講師に地域に根差した実践的なカリキュラムの構築を行いました。

・ＡＬコース情報ビジネスコースでは、石巻専修大学経営学部教授の李東勲さんをメンターに、本校グローカルビジネス科教員が担当しながら、地域社会での課題に対応できる実践的なカリキュラムの構築を行いました。

・ＡＬコーススポーツ専攻では、専修大学法学部教授の吉田清司さんをメンターとして、専修大学スポーツ研究所と連携し、スポーツ理論の基礎を学ぶとともに、総合型地域スポーツクラブＳＶきたかみと連携し、その知識を地域での実践につなげるカリキュラムの構築を行いました。

・これら５つの専攻での学びを共有し、つなげる時間としての、総合的な探究の時間「ＳＥＮＴＡＮ」を年間を通して進めることで、グローカルビジネス科、自動車科を含め、多様な知とふれ、その中で自分の学びを深める体制の構築を行いました。

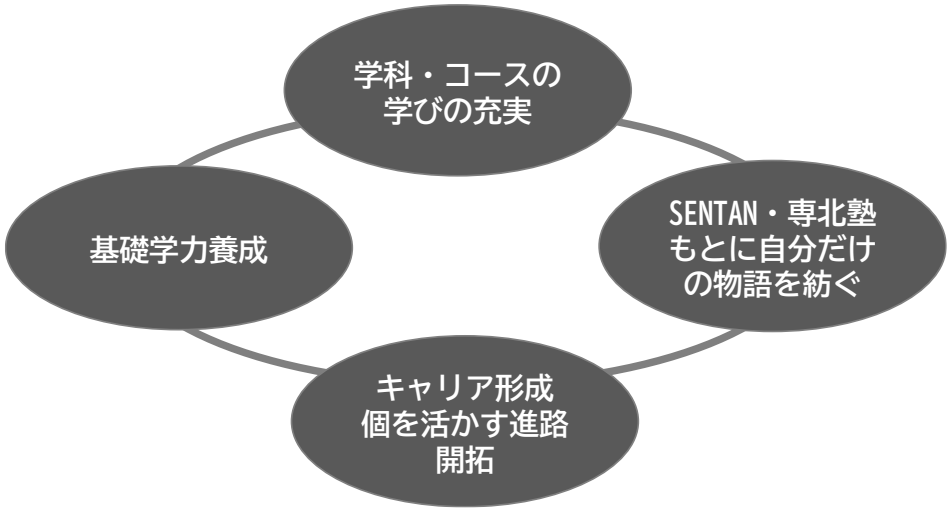
＜カリキュラム開発に向けたメンタリング実績＞

PBL専攻 ※探究型授業実践にむけた改善アドバイス メンター:石川一郎さん カリキュラム構築:経営企画部	7月13日(水)･14日(木) 8月31日(水) 9月15日(木)･16日(金) 10月12日(水) 11月15日(火)･16日(水) 12月8日(木)･9日(金) 1月25日(水)･26日(木) 2月7日(火)･8日(水) 3月9日(木)･10日(金)
福祉･保育･幼児教育専攻 メンター:髙橋岳志さん カリキュラム構築:家庭科	8月25日(木) 10月20日(木) 10月25日(火) 1月23日(月) 2月10日(金) 3月13日(月)
情報ビジネス専攻 メンター:李東勲さん カリキュラム構築:商業科	8月12日(金) 9月21日(水)･22日(木) 11月8日(火)･9日(水) 11月11日(金) 1月27日(金)･28日(土) 3月7日(火)
スポーツ専攻 メンター:吉田清司さん 担当教員:体育科	8月24日(水)･25日(木) 9月27日(火)･28日(水) 10月18日(火)･19日(水) 1月19日(木)･20日(金) 2月16日(木)･17日(金) 3月6日(月)･7日(火)

普通科DLコース　学問探究専攻

〇この専攻の学びの特徴

・「学向力」を高めるために、「目標設定⇒計画⇒実行⇒振返り・修正」のサイクルを確立します。
・「学力養成」に向けた、学力診断と日々の学びをつなげ、上級学校への推薦等、それぞれの進路に対応した力が身につく仕組みを構築します。
・長期休業中には、専北塾アカデミー開講を開講し、集中的な学びの機会をつくります。
・「視野拡大＆思考力・表現力の育成」に向けて、レクチャー（インプット）ー思考ー意見交換（アウトプット）のサイクルをそれぞれの教科で実践します。



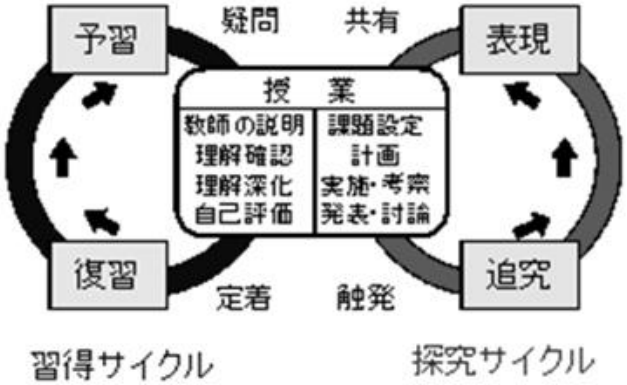
〇教科・科目概要

２年生	３年生
以下の科目を必修として設置します（※ＰＢＬとの比較） ・文学国語　１単位 ・数学Ｂ　２単位 ・英語実践　１単位	文理選択により、それぞれの希望する進路に対応した学びの実践を行います。※以下選択例 文系（文学国語２単位・理科探究２単位）or　理系（化学４単位） 文系（政治経済２単位・地歴探究２単位）or　理系（物理４単位） 文系（数学演習３単位）　or　理系（数学Ⅲ３単位）

〇より実践的な学び・より深い学びにするための取り組み

・３レベル（基礎・標準・発展）ごとのＴＯＤＯ　ＣＡＮＤＯを明記した学期シラバスに基づく学習を進めます。
　（７教科　国・数・英・地・公・理）
・石巻専修大学と連携するなどして、発展・横断型授業の実施します。
　（各学期ごと単位数分の時間　例4単位　１学期4時間）
・各教科とも学期ごと小論文1本を必修とし、評価対象とします。
　（各教科での学びを体系化し、言語化する力を高めていきます。
・共通テスト受験を基本必修とし、3年学年末考査を共通テストに置き換えます。

普通科DLコース　ＰＢＬ専攻



○この専攻の学びの特徴

・専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、 深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力である「社会知性」（Socio -Intelligence）を高めることを目的としています。

・ＰＢＬとは「Project Based Learning」の略で、課題解決型学習と訳されることもあります。学習者自らが課題を見つけ、様々な先行研究での結果、調査、実験、地域・社会での実践等を組み合わせながら答えを構築していく学び方です。

・この学びを通して、ルーブリックに基づき、具体的に「課題発見力」「課題解決力」「知的忍耐力」「人間性」「国際性」の５項目の力を伸ばしていきます。

○教科・科目概要

２年生		３年生	
Socio IA（3単位）	ラーニングスキル、情報リテラシー、課題設定、フィールドワーク設計等のＰＢＬの基本的なプロセスを実践の中で学び、自分の探究テーマの輪郭を明確化するとともに、自分らしい学びを実践します。	Socio Ⅱ（3単位）	卒業研究を進めていくことにより、個人の探究テーマを掘り下げてながら、仮説を設定し、地域・社会をつながり、納得解を構築し、その解の共有を行うまでの一連のプロジェクトを完結させます。
Socio IB（1単位）	グループ単位での専修大学SDGsプログラムへの参加により、年間を通しての課題解決型学習の実践します。		
※この他、全校共通の総合的な探究の時間として「ＳＥＮＴＡＮ」を各１単位			

○より実践的な学び・より深い学びにするための取り組み

・ＰＢＬ専攻の名前のとおり、ただ教室の中で学ぶだけではなく、フィールドワークや地域・社会でのさまざまな実践、大学などの研究機関との連携をもとに、自分の探究テーマを深めることが世界の未来にどのような意味を持つものであるかを考えていきます。

・専修大学SDGsプロジェクトや外部の探究アワードなど、高校の枠を超えたプログラムにも参加し、より多様な学びとつながる機会をつくっていきます。

普通科ＡＬコース

福祉・保育・幼児教育専攻

〇この専攻の学びの特徴

・福祉・保育・幼児教育コースでは、高齢者・幼児・障害者について理解を深め、専門的な知識や技術を習得するとともに、福祉や幼児教育の分野の大切さについて考えます。

・ノーマライゼーションについて学び、障がいの有無や世代の違いで人を判断することなく、全ての人が幸せになる世の中を目指します。

・全ての人が幸せになるために、何が課題でどうすれば良いか、施設の見学やインタビュー、体験などの実体験を通して考えます。

〇教科・科目概要

２年生		３年生	
社会福祉基礎 （２単位）	社会福祉に関する基礎的な知識を学びます ・社会福祉について考えよう ・人間の尊厳と新たな社会福祉の創造 ・高齢者福祉・障害者福祉　　等	コミュニケーション技術 （２単位）	社会における福祉の広がりを理解し、信頼関係を構築するためのコミュニケーション技術を学びます ・支援における人間関係の形成 ・チームワークとリーダーシップ ・新時代に向けた社会福祉　　等
福祉・保育・幼児教育基礎 （２単位）	主に子どもの特徴および周囲の環境についての理解を深めます ・子どもの発達の特性 ・子どもの生活・衣服・住環境 ・子どもの健康管理　　等	福祉・保育・幼児教育発展 （４単位）	保育・幼児教育・子どもの福祉に必要な知識を、実際に子ども達との交流等の現場での学びとつなげ、体系的に理解します ・保育の意義・保育環境 ・子どもの福祉 ・子育て支援　　等

〇より実践的な学び・より深い学びにするための取り組み

・この専攻では、座学ばかりではなく、専修大学北上福祉教育専門学校、認定こども園専修大学北上幼稚園、市内の福祉・高齢者施設と連携しながら、より実践的な学びを行います。

・特に保育・幼児教育においては、子ども達との食育交流、絵本づくり、幼児用お弁当作りなどを通して、実際に子ども達、そして保育・幼児教育に携わる皆さんとの交流を行うことで、保育・子育て全般の体系的な知識と社会をつなげます。

・認知症サポーター養成講座、手話講座など、さまざまなちがいを理解し、それぞれのちがいを尊重していける社会の構築に向けた実体験を積み重ねていくことで、地域福祉を包括的に考える視点を身に着けます。

普通科ＡＬコース

情報ビジネス専攻

〇この専攻の学びの特徴

・この専攻では、「ビジネス」という視点で地域・世界がどのような仕組みで構成されているかを理解し、知識と実社会をつなげる学びを実践していきます。

・２年生では、実社会でこれまで学んできたこと、経験したことがビジネスの世界でどのように活用できるのかを学びます。そして、実社会で活躍するための情報処理技術を高め、自分のキャリアイメージを構築していきます。

・３年生では、マーケティング、グローバル経済など、お金と商品といった「価値交換」がどのように行われ、それが世界とどうつながっているかといった、多様な産業において活用できる知識を学びます。

〇教科・科目概要

２年生		３年生	
ビジネス基礎 （２単位）	経済そして企業活動を身近な事例から理解するとともに、価値を創出し、交換するというビジネスの基礎を実践的に学びます。 ・ビジネスとは ・経済と流通 ・企業活動 ・ビジネス基礎を踏まえた探究的活動	マーケティング （２単位）	価値の交換プロセスを体系的に学ぶとともに、その学びを実際の企業活動の課題解決につなげます ・市場とマーケティング ・プロモーション戦略 ・地域企業と連携した実践活動
情報処理 （２単位）	情報Ｉをさらにビジネスの実践につなげる学びを行います ・企業活動と情報処理 ・コンピューターと情報通信技術 ・WEBページの作成 ・情報の収集・分析	グローバル経済 （２単位）	世界市場と地域企業と関係性を理解し、企業活動のさらなる成長に向けた戦略構築を実際の企業をモデルに構築します。 ・経済のグローバル化と日本 ・企業のグローバル化の動向と課題 ・地域企業のグローバル化に向けた探究活動
		情報処理 （２単位）	情報というツールを通して、企業活動の課題解決につなげられる学びを行います ・コミュニケーションと情報デザイン ・ビジネスと統計 ・課題解決に向けた情報技術の活用

〇より実践的な学び・より深い学びにするための取り組み

・この専攻では、２年生・３年生を通して、身近な地域企業の課題を解決するという目標のもと、そのために必要な知識を学びます。

・学んだ知識は、実際に企業の皆さんへの提案や課題解決の実践につないでいくことにより、「情報」「ビジネスの知識」が地域や世界でどのようにつながるかを体系的に理解します。

普通科ＡＬコース　# スポーツ専攻

〇この専攻の学びの特徴

・スポーツと地域社会のつながりを理解することによって、自分らしいスポーツとの向き合い方を考えます。特にアスリートとしての関わりの他、「スポーツを支える」視点、そして「スポーツを行う場をつくる」という経験をもとに、より幅広い視点でスポーツを理解することで、自分を含め、より多くの人のより豊かなスポーツライフにつながる学びを実践します。

・スポーツにおいてよりよいプレーを行うためには、競技特性に応じたトレーニングが必要不可欠です。筋・骨格の構造、エネルギー供給等のメカニズムを学ぶとともに、競技特性に応じたトレーニングの基本を学び、それぞれのパフォーマンスの向上につなげます。

〇教科・科目概要

２年生		３年生	
スポーツ概論（２単位）	日々進歩しているスポーツに関する幅広い知識を理解できるよう、その核となる理論を学びます ・スポーツの文化的特性とスポーツの発展 ・豊かなスポーツライフの設計の方法 ・スポーツの多様な指導法と健康・安全	スポーツ科学特論（２単位）	客観的根拠に基づくコーチング、求められるコーチ、指導者としての資質・能力を高めるための理論を学びます ・コーチングスキル　・スポーツ指導法 ・健康スポーツ　・子どもとスポーツ ・スポーツとまちづくり
トレーニング論（２単位）	試合でのベストパフォーマンスに導くコンディショニング法を身に着けます ・スポーツテストの目的・結果分析 ・目的に応じたトレーニングの実践 ・トレーニングメニューの作成 ・メンタルトレーニング講習	スポーツ総合演習（４単位）	実際のスポーツ現場で必要な知識を学び、それをさまざまな実践活動につなげます。 ・多様な目的に応じた指導法 ・さまざまなスポーツ教室の企画・運営 ・スポーツツーリズム

〇より実践的な学び・より深い学びにするための取り組み

・この専攻では、専修大学スポーツ研究所、アスレチックトレーナー、理学療法士、、柔道整復師、管理栄養士など、スポーツの現場で活躍する外部講師と連携し、より現場に近い視点で最新のスポーツ理論を学びます。

・認定こども園北上幼稚園や総合型地域スポーツクラブＳＶきたかみ、そしてスキー場等とも連携しながら、地域でのさまざまスポーツ教室やスポーツイベントの企画など、スポーツの場をつくることを実践します。

・トレーニング論を含め、スポーツを体系的に学び、様々なスポーツへのアプローチを理解し、さらにそれを実際の自分のトレーニング、そしてアスリートとしてのパフォーマンスと関連付けることでより深い学びにつながります。

取り組み③：ＤＸによる学びの深化と負担軽減（本校独自事業）

学びの改革に向けては、デジタル技術の活用による個別最適化に向けた取り組み、そして教員の負担軽減が必要不可欠であると考えます。

本校では、独自事業として「専北DX（デジタルトランスフォーメーション）」の取り組みを立ち上げ、以下の取り組みを行いました。

・現在の教職員の業務課題の洗い出し

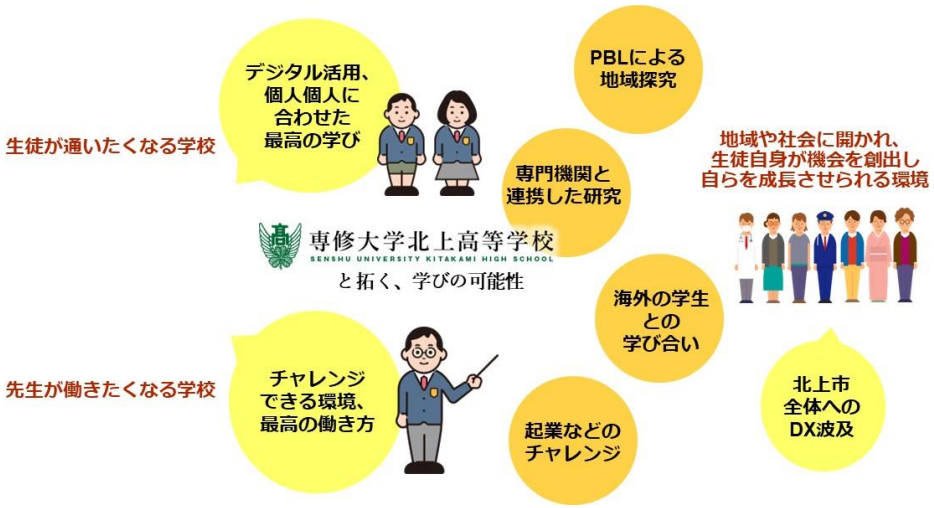
・上記に基づく、本校としての目指すべきかたちの整理

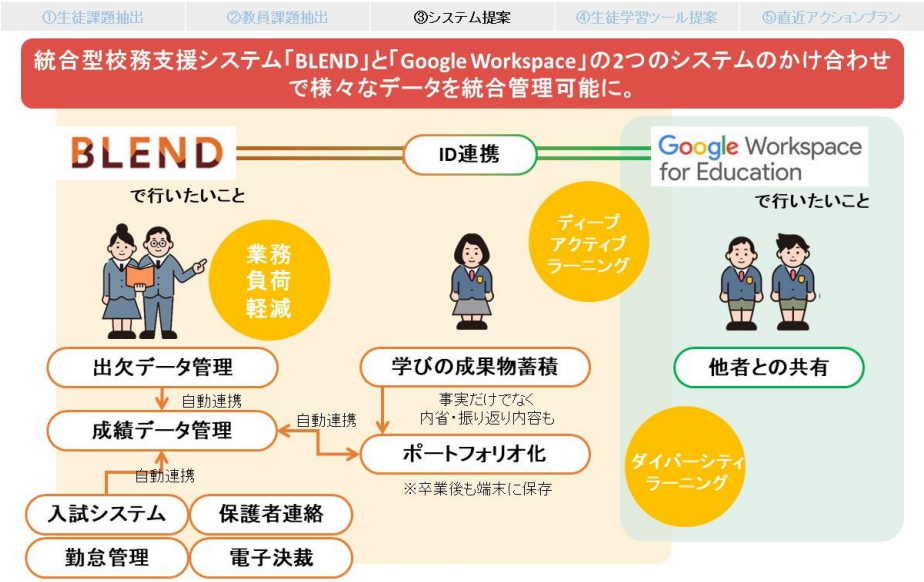
・目指すべきかたちの実現に向けたシステムの選定

・そのシステムがより効果的に活用されるための環境整備

この検討をもとに、これまで出席管理・成績管理・生徒連絡・保護者連絡・入試管理等がバラバラで運用されていたものを１つのシステムで統合したほか、紙ベースであった朝学習課題のデジタル化、授業支援システムの採用など、業務改善と１人１台端末に対応した新しい仕組みの構築につなげました。

次年度より本格導入となり、今後、評価・改善を繰り返しながら、本校の学びの改革に対応したデジタルの活用を進めていきます。





文部科学省「教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)
https://www.mext.go.jp/content/20200701-mxt_jogai01-000003284_005pdf.pdf

推進体制：地域と連携した学びの実践に向けた取り組み

２０２２年度　運営指導委員会

＜この委員会の位置づけ＞
・次年度以降の普通科カリキュラムをよりディープに、よりアクティブにするための共有とアイディア出しを行います
＜第１回の到達点＞
・次年度から始まる各専攻の２年次のカリキュラムの共有
・実施に向けての課題および改善点、取り組みに対する期待の共有

＜内容＞
・校長あいさつ
・この会議の位置づけおよび到達点の確認
・これまでの普通科改革に関する経過報告
・普通科各専攻のカリキュラム検討状況の共有
　※５専攻担当教員からの説明とメンターからのコメント
・各委員からのコメント

＜当日出席者＞
張乙清さん　（ベネッセコーポレーション東北支社長）※学問探究
石川一郎さん（２１世紀教育機構理事）　※PBL専攻
吉田清司さん　（専修大学スポーツ研究所　法学部教授）※スポーツ専攻
高橋岳志さん　（かんな社会事業事務所　本校ＳＳＷｒ）※福祉･保育専攻
李東勲さん　（石巻専修大学経営学部教授）　※情報ビジネス専攻
今野好孝さん（北上商工会議所専務理事）　※地域連携コンソーシアム
高橋正貴さん（北上市まちづくり部地域づくり課）※地域連携コンソーシアム
宮岡孝之　（学校法人北上学園 理事長）
六本木 郁子（専修大学北上福祉教育専門学校校長）
阿部伸　（専修大学北上高等学校校長）
※この他、各専攻担当教員、法人事務局、学校改革アドバイザーが参加

専大北上高校「未来の学びフォーラム２０２２」

テーマ：「主体的な学びとは何か」
学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の推進が明記されていますが、主体性を育むことと、越えなければならない課題を設定することなど、バランスに悩んでいる方も多いと思います。
このフォーラムで、学習者の支援者の間における「主体性」との向き合い方について答えをかたちづくる一助になれば幸いです。

＜概要＞
日時：２０２２年7月２９日（金）１３：３０～１６：１５
会場：専修大学北上高校クリエイションホール
参加：４０名
＜内容＞
〇開催趣旨説明：阿部伸（専修大学北上高校　校長）
〇基調講演①：「主体的な学びとは～学び方改革の先にあるもの～」
　石川一郎さん　（21世紀型教育機構理事・学校法人北上学園理事）
〇実践発表：テーマ「主体性を育む学びの改革」
【中学校と高校をつなぐ学びの実践】
　実践①子どもが自律する学びのミライ地図の描き方
～自律型学習者、個別最適化、ICT、PBLなどの実践を通して～
　　山本崇雄さん（横浜創英中学・高等学校校長補佐）
【主体性を高めるため仕組みづくり】
　実践②高校生におけるルールメイキングの実践と効果
　　菅野祐太さん（岩手県立大槌高等学校カリキュラム開発等専門家）
〇クロージングトーク：「今日の学びをこれからにつなげるために」
　北上市教育長　平野憲さん×　石川一郎さん

専大北上高校「未来の学び勉強会」特別編

大学入試における教科「情報」
～２０２５年度入試に向け、どのような力を伸ばすのか～
＜概要＞
日時：２０２２年１２月１６日（金）　１４：００～１６：００
＜内容および講師＞
２０２５年度から大学入学共通テストに導入される教科「情報」。先日、大学入試センターからサンプル問題が公開され、また各大学・学部での利用の有無等、具体的な動きが出てきています。
本講座では、現段階における教科「情報」をめぐる大学などの対応を共有しながら、今後、教科「情報」の中で、特に大切にしたい能力について考えます。
〇講師：寺西隆行さん　（ライフイズテック株式会社官民共創プロモーター）

評価体系構築：専修大学北上高校2022年度「8つの力ルーブリック」によるアセスメント

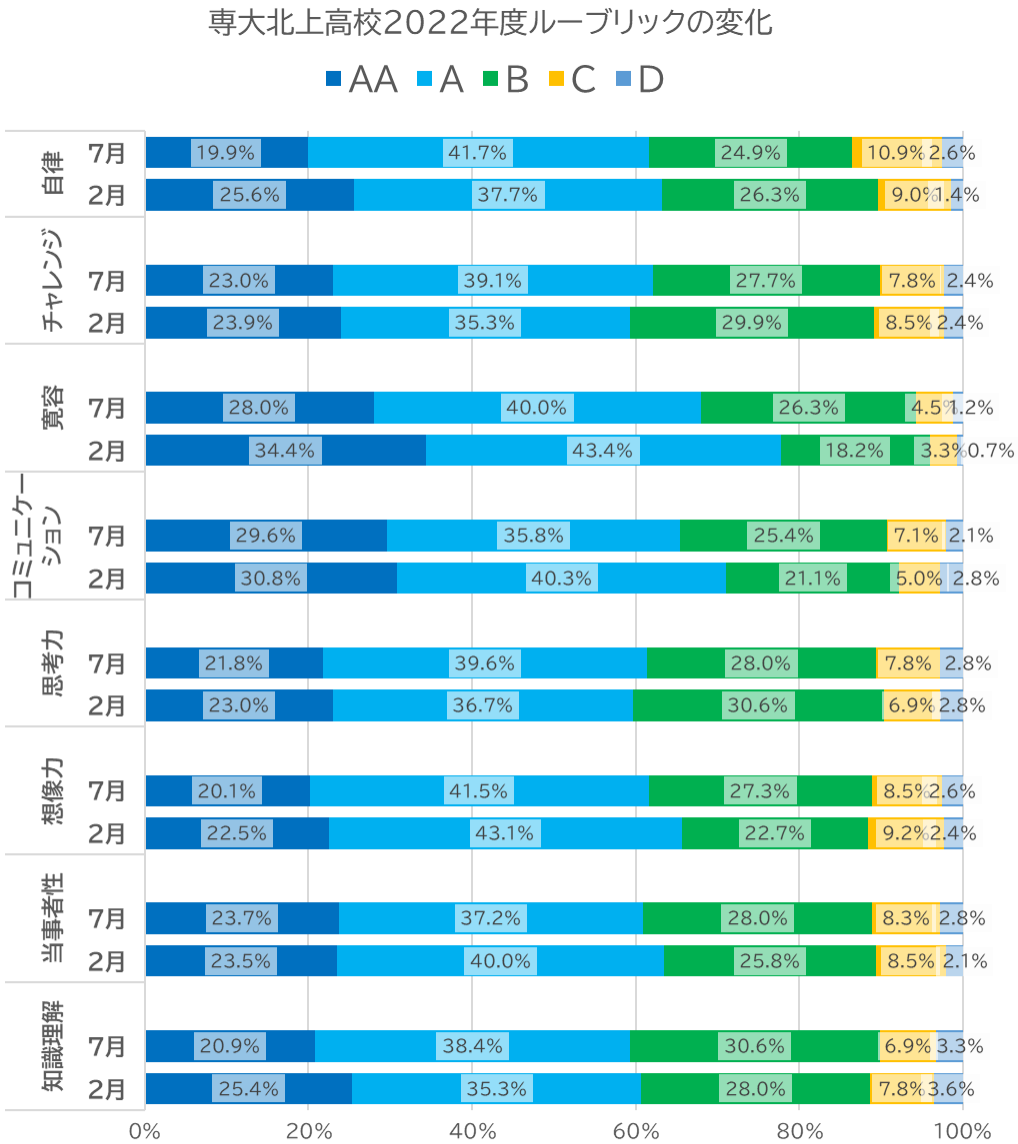
ディプロマポリシーの明確化とカリキュラム改革に基づき、卒業までに身に付けるべき力・姿勢の明確化と教員・生徒による双方向での評価の仕組みが必要となります。
この８つの力はそれぞれの教科や活動を統合する役割ももっており、教員・生徒がそれぞれの教科・科目をなぜ学ぶかを共有することであり、校内における「大切な価値」の共有、それに基づく授業・活動の実践につなげます。

専大北上高校『8つの力』ルーブリック

ディプロマポリシー ※卒業認定の方針	卒業までに身に付ける 8つの資質・能力・姿勢		ルーブリック（8つの項目それぞれで一番当てはまるものに○をしてください）				
			AA	A	B	C	D
健全な心身のもと、自分の資質をより伸ばそうとする力	自律	自分の言動や行動に責任を持ち、自ら考え、次の行動や、将来の夢に繋げることができる。	社会の中での自分の役割・責任を認識したうえで、自分の将来や夢に向かって考え、行動することができる	自分の将来につながる目標を設定でき、それに向け自ら考え行動できる	1つ1つの取り組みごとに目標を立てられ、達成できるように、自ら考え行動できる	自分自身で目標を立てることができる	他者から言われた目標を受け入れることはできる
	チャレンジ	自分を意味ある存在として考え自信を持ち、さまざま事象に対して、自分の役割を見つけ、全力で取り組むことができる。	たくさんの失敗を活かし、さまざまな状況において当事者性を持ち、全力で、自分らしく取り組むことができる	たくさんの失敗を繰り返した経験をもとに、新しくチャレンジしたいことが生まれている	失敗するかもしれないことに対して、自らチャレンジすることができる	自分がチャレンジしたいことがある	他者から言われたことは取り組める
多様なちがいを尊重し、誰とでも繋がれる力	寛容性	自分とはちがう視点、考え方をもつさまざまな背景を持つ者を受け入れ、さらに協調して共に高めようとすることができる。	ひとりひとりのちがいを尊重し、そのちがいは自分や社会をより良くしていくために必要なものとして大切にできる	考え方、文化、容姿などさまざまなちがいを大切にすることができる	考え方、文化、容姿などさまざまなちがいを受け入れることができる	集団や他者との関係の中で、他者を気づかえる	仲の良い特定の他者のみ、気づかうことができる
	コミュニケーション	自分の考えを発信でき、相手の考えを聴くことで、双方の共感を引き出せる。	それぞれの人が理解できるように伝えられ、また、相手の考えを引き出し、共感を得ることができる。	相手に合わせて自分の考えを伝えられ、また相手の話も引き出すことができる	自分の意見や考えを相手に合わせて伝えることができる	自分の意見や考えを、相手に伝えることができる	仲の良い特定の他者のみ、自分の考えを伝えることができる
将来の夢の実現に向け、深く考え行動できる力	思考力	未知の状況があっても、さまざまな情報を集め、論理的に整理し、さまざまな可能性を検討することができる。	未知のことについても粘り強く考え、これまでの常識にとわられず、情報を整理・統合し、多面的に可能性を検討することができる	未知のことについて、さまざまな情報を調査・整理・統合し、解を検討することができる	1つの情報を鵜呑みにせず、さまざまな情報を自ら集め、解を検討できる	与えられた情報を整理・統合できる	与えられた情報を整理することはできる
	創造力	地域や世界の課題に対して、好奇心を持って試行錯誤し、自分らしい新たな解を創ることができる。	地域や世界のさまざまな課題に対して、自分が培ってきた知識・技術や他者の考えを活かし、試行錯誤しながら新しい解を創ることができる	さまざまな課題に対して、自分の知識・関心とさまざまな知識・情報を組み合わせ、解をつくりだすことができる	さまざまな課題に対して、自分の知識・関心を活かして解をつくりだすことができる	自分が興味ある課題に対して、自分の知識・関心を活かした解をつくることができる	特定の課題に対して、解を考えることができる
地域、そして世界の様々な課題に対して、常に当事者意識を持ち、解決に向けて向き合う力	社会に対する当事者性	社会を支える当事者としての意識を持ち、未来を創る担い手としての自覚をもち、様々な課題に向き合うことができる。	よりよい未来をつくることに対しての意欲があり、さまざまな課題に対して、積極的に向き合うことができる	社会のさまざまな事象を自分事としてとらえ、他者のために行動することができる	社会のさまざまな事象を自分事として考えることができる	所属するさまざまな集団の一員としての自覚を持ち、行動できる	自分の好む集団の中では、主体的な行動ができる
	地域・世界の課題に関する知識・理解	多様な分野を学ぶことで、地域や社会の成り立ちを理解し、その課題を解決するための知識を身に着けている。	これまで深く学んだ多様な分野の知識・技術をもとに、さまざまな地域や社会の課題に対する解をつくることができる	学校で身に着けた知識・技術とさまざまな地域や社会の課題をつなぎあわせることができる	学校で身に着けた知識・技術が地域や社会にどのようにつながるかを理解している	地域や社会を考える上での基本的な知識が身についている	地域や社会のことは少しは知っている

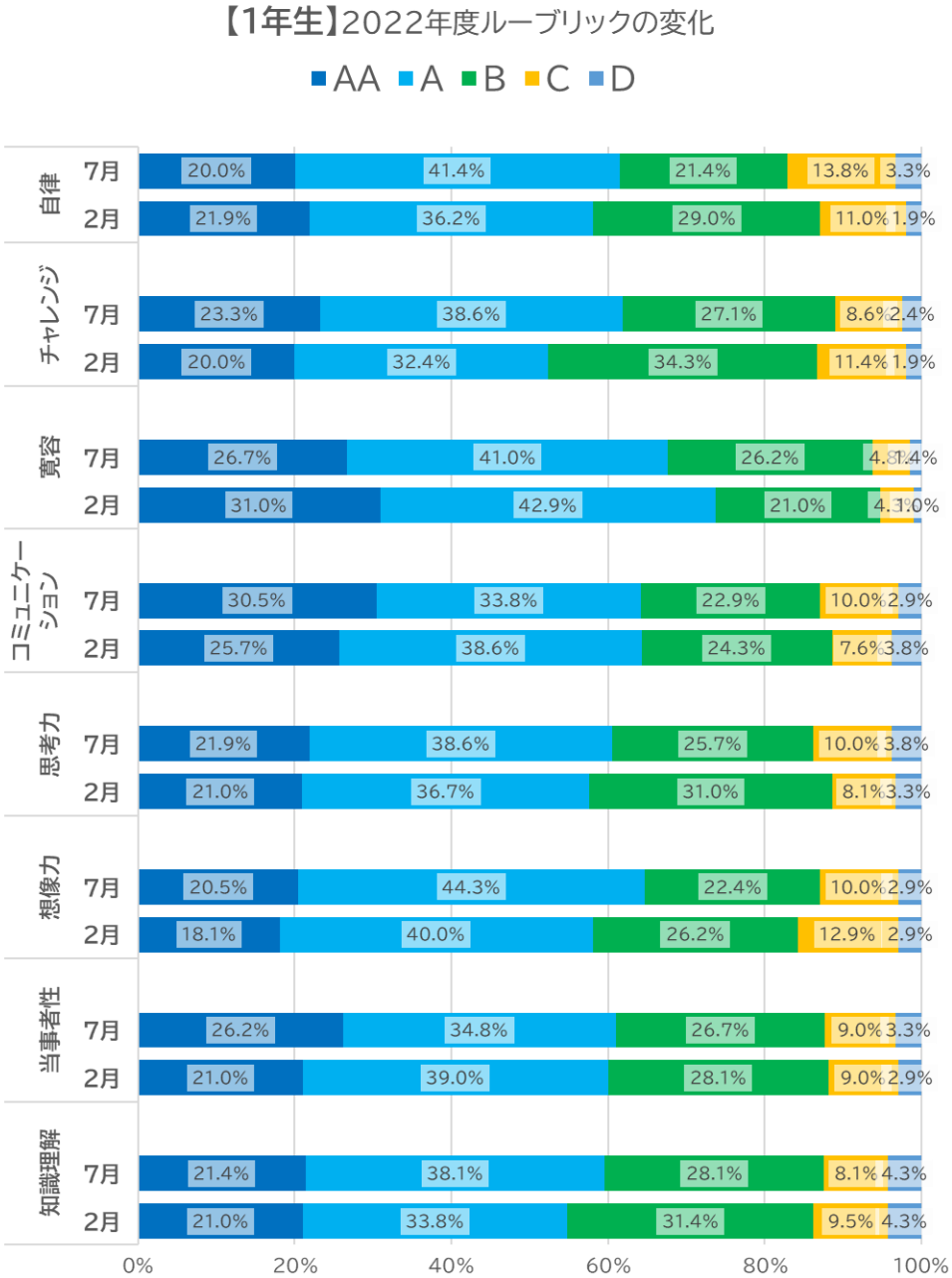
専修大学北上高校2022年度「8つの力ルーブリック」全体の推移

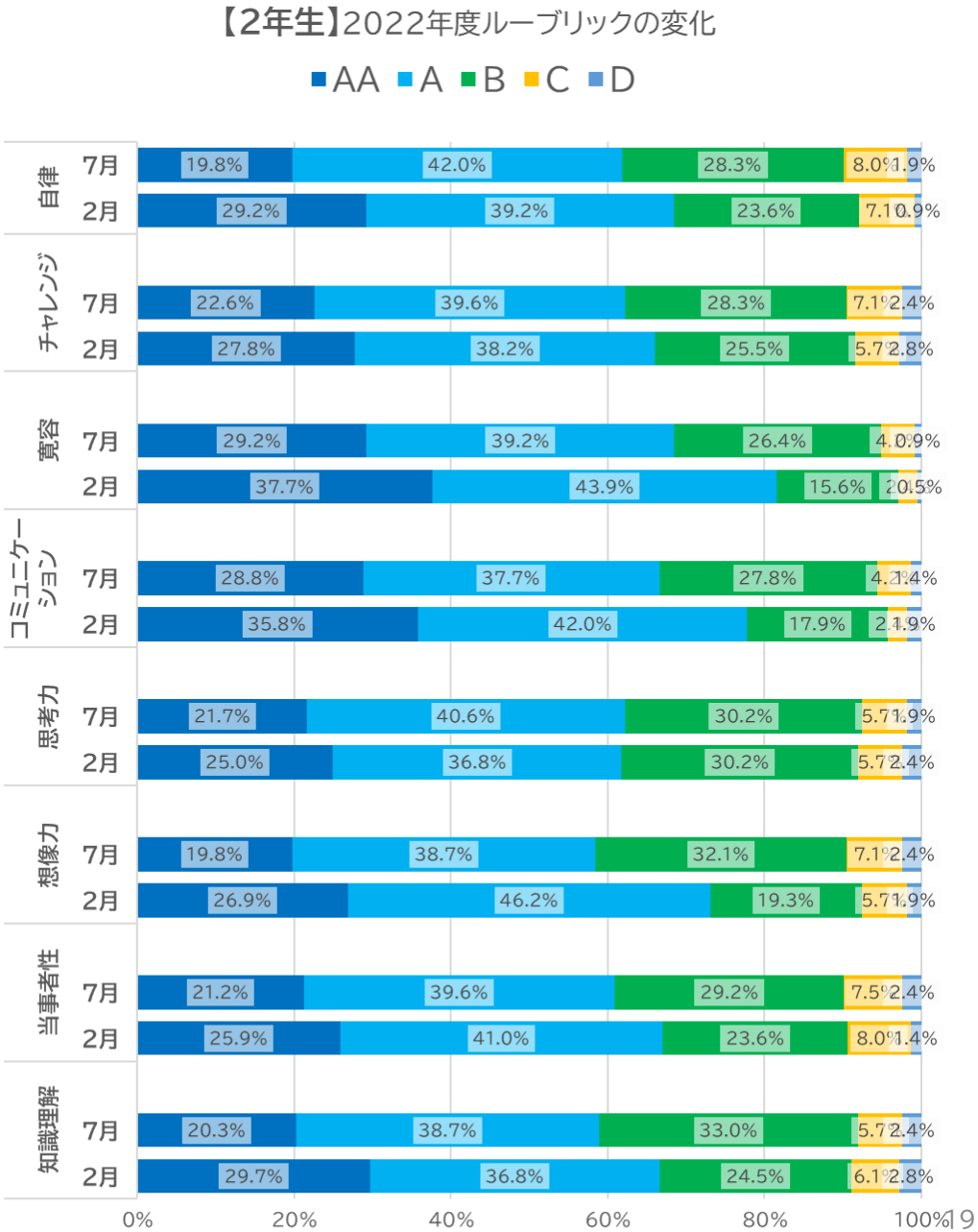
２０２２年7月と２０２３年２月に実施した８つのルーブリックに基づくアセスメントの推移を示したのが以下のグラフです。
寛容性やコミュニケーション、想像力等が伸びた一方、チャレンジや思考力は全体的な向上は認められませんでした。
この結果はあくまで全体データであり、各生徒の個票を作成し、個別フィードバックすることで、それぞれの次の学びにつなげます。



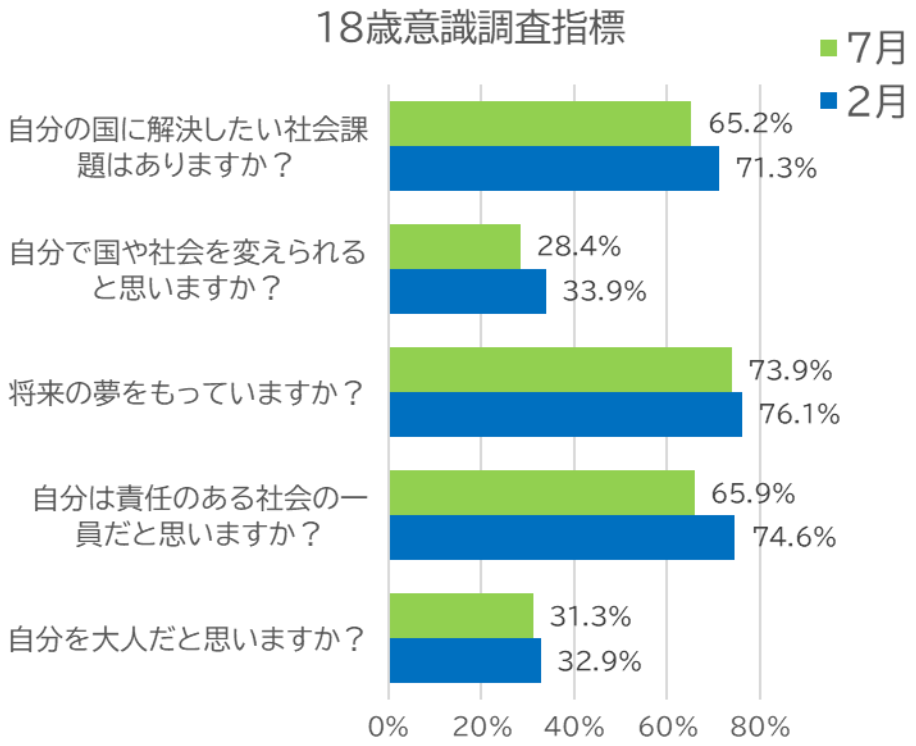
8つの力	学年	実施月	AA		A		B		C		D	
			n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
自律	1年生	7月	42	20.0%	87	41.4%	45	21.4%	29	13.8%	7	3.3%
		2月	46	21.9%	76	36.2%	61	29.0%	23	11.0%	4	1.9%
	2年生	7月	42	19.8%	89	42.0%	60	28.3%	17	8.0%	4	1.9%
		2月	62	29.2%	83	39.2%	50	23.6%	15	7.1%	2	0.9%
チャレンジ	1年生	7月	49	23.3%	81	38.6%	57	27.1%	18	8.6%	5	2.4%
		2月	42	20.0%	68	32.4%	72	34.3%	24	11.4%	4	1.9%
	2年生	7月	48	22.6%	84	39.6%	60	28.3%	15	7.1%	5	2.4%
		2月	59	27.8%	81	38.2%	54	25.5%	12	5.7%	6	2.8%
寛容	1年生	7月	56	26.7%	86	41.0%	55	26.2%	10	4.8%	3	1.4%
		2月	65	31.0%	90	42.9%	44	21.0%	9	4.3%	2	1.0%
	2年生	7月	62	29.2%	83	39.2%	56	26.4%	9	4.2%	2	0.9%
		2月	80	37.7%	93	43.9%	33	15.6%	5	2.4%	1	0.5%
コミュニケーション	1年生	7月	64	30.5%	71	33.8%	48	22.9%	21	10.0%	6	2.9%
		2月	54	25.7%	81	38.6%	51	24.3%	16	7.6%	8	3.8%
	2年生	7月	61	28.8%	80	37.7%	59	27.8%	9	4.2%	3	1.4%
		2月	76	35.8%	89	42.0%	38	17.9%	5	2.4%	4	1.9%
思考力	1年生	7月	46	21.9%	81	38.6%	54	25.7%	21	10.0%	8	3.8%
		2月	44	21.0%	77	36.7%	65	31.0%	17	8.1%	7	3.3%
	2年生	7月	46	21.7%	86	40.6%	64	30.2%	12	5.7%	4	1.9%
		2月	53	25.0%	78	36.8%	64	30.2%	12	5.7%	5	2.4%
想像力	1年生	7月	43	20.5%	93	44.3%	47	22.4%	21	10.0%	6	2.9%
		2月	38	18.1%	84	40.0%	55	26.2%	27	12.9%	6	2.9%
	2年生	7月	42	19.8%	82	38.7%	68	32.1%	15	7.1%	5	2.4%
		2月	57	26.9%	98	46.2%	41	19.3%	12	5.7%	4	1.9%
当事者性	1年生	7月	55	26.2%	73	34.8%	56	26.7%	19	9.0%	7	3.3%
		2月	44	21.0%	82	39.0%	59	28.1%	19	9.0%	6	2.9%
	2年生	7月	45	21.2%	84	39.6%	62	29.2%	16	7.5%	5	2.4%
		2月	55	25.9%	87	41.0%	50	23.6%	17	8.0%	3	1.4%
知識理解	1年生	7月	45	21.4%	80	38.1%	59	28.1%	17	8.1%	9	4.3%
		2月	44	21.0%	71	33.8%	66	31.4%	20	9.5%	9	4.3%
	2年生	7月	43	20.3%	82	38.7%	70	33.0%	12	5.7%	5	2.4%
		2月	63	29.7%	78	36.8%	52	24.5%	13	6.1%	6	2.8%

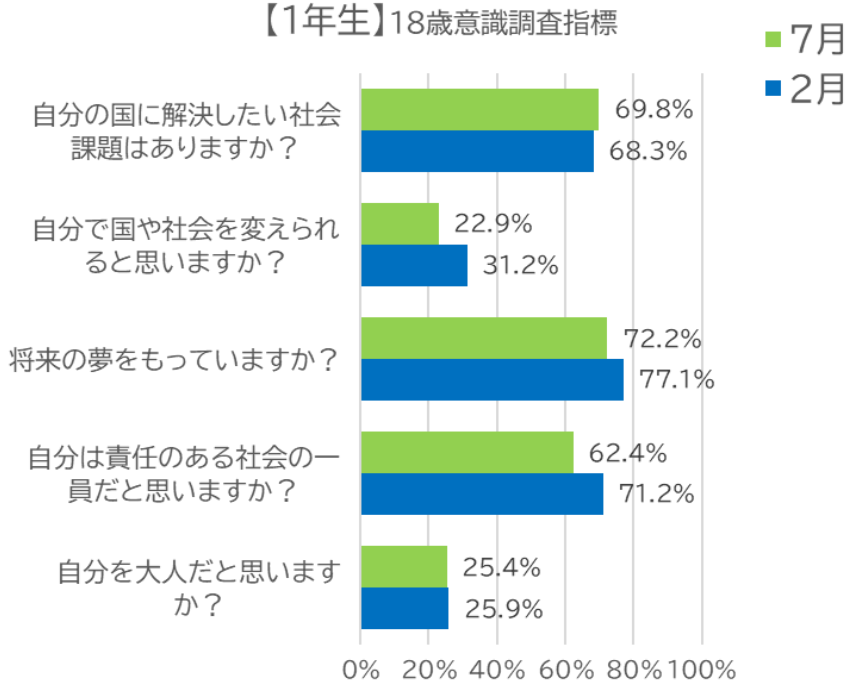
資料②学年別「8つの力ルーブリック」の推移



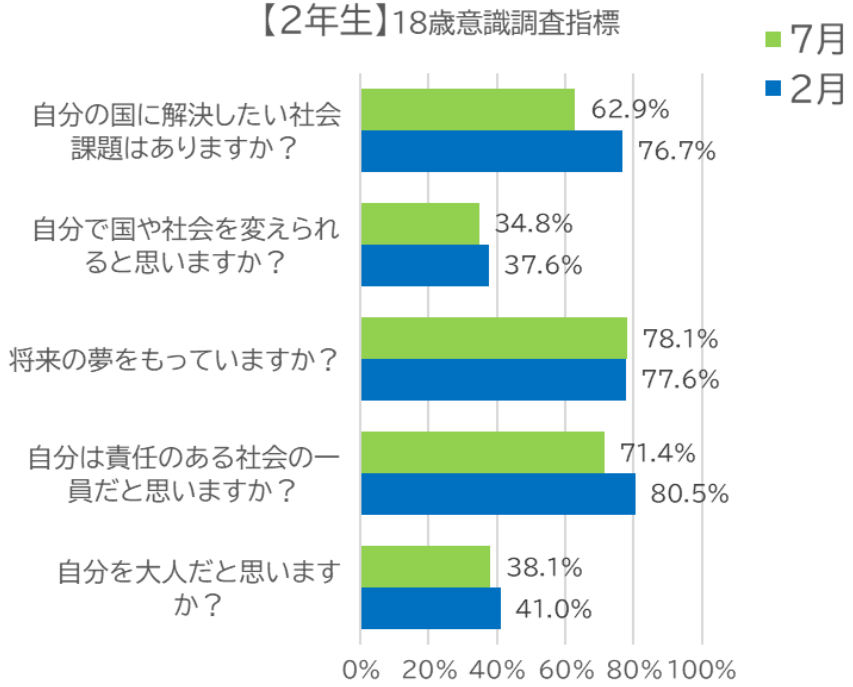


資料② 日本財団18歳意識調査項目 ※「はい」の割合





＜参考：日本財団2019年18歳調査から抜粋＞



取り組み評価：専修大学北上高校「学校の変化」に関する調査報告

帝京大学教職大学院　町支大祐

１．本報告について

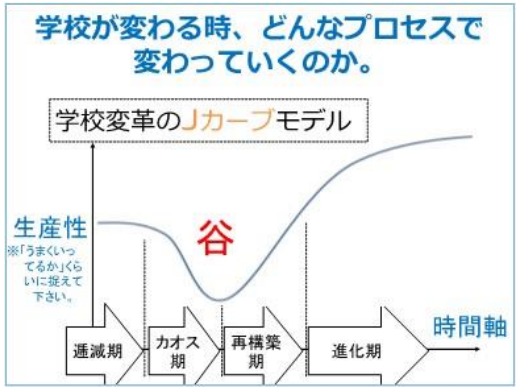
本報告は、外部人材である町支大祐が、4度の校内ワークショップおよび3度のヒアリングを通じて観察してきた、専修大学北上高校の様子をまとめたものです。

これまでの訪問調査およびワークショップの機会
・2021.11 ヒアリング1
・2022.01ワークショップ1
・2022.02 ヒアリング2およびワークショップ2
・2022.04 ワークショップ3
・2022.07 ヒアリング3
・2022.10 ワークショップ4

なお、以下ではヒアリングで得られたデータを引用しながら報告を行いますが、その発言が個人と紐づけられることがないよう、報告者の方で一部修正を加えています。ご了承ください。

２．変革を通じた大きな変化の流れ

ここではまず、ここ数年の変革を通じて起きてきた、組織内の変化の大まかな流れについて報告します。



学校がカリキュラムやそのコンセプトを変えるなどしていく際には、その変革は一筋縄ではいきません。以前、研修でも話したことがあるが、図１のようなプロセスを辿ることが多いです。このモデルに沿って、専大北上高校の変遷についても考えていきたいと思います。

なお、以下では、　『　』内は発話データ、［　］内は質問者の言葉、（　）内は、報告者による注や補足とします。

１．本報告について

（１）変わることへの期待

まず、実際に新たなカリキュラムが始まる前(2021)には、変わっていくことへの期待の声がありました。例えば、

『閉塞感があったのが、変わろうとしているじゃない。それがとにかく良かった。分かりやすく変わろうとしてきているじゃない。生徒数も質も、科で見ても全体で見ても減ってきてたからさ。外部から見たら絶対良くなるように映るだろうし。』

『ずっと不安があったんですよね。変わっていかないことへの不安。今、刺激をうけて変わろうとしている人が出てきているし、自分も変わっていかなきゃと思ってるんですよね。』

といった声です。

逓減期の変容をリアルに感じ、そこに対する閉塞感や不安があったという声があり、それを打破することへの期待の声が聞かれました。

（２）カオスの中での不安

一方で、カオス期に入るにつれ、不安な声も聞こえるようになったのが正直なところです。例えば、ある先生は、生徒の特質をふまえて以下のように述べています。

『アクティブラーニングとか、研修の先生たちがいう方向が一番新しい教育だっていうことは分かりますが、それが通用しないと思っています。ここの生徒の内実には合わない。そもそも生活習慣が身についていないし、考えないままで育ってきた子たちだから。小中で考えてきた子たちは他に行く。』

また、方向性について葛藤を感じている先生もいました。

『探究とかアクティブラーニングは生徒にはやっぱり大事だと思います。これからの世の中が変わっていて、そういう変化が大事なんだとは思いました。』と捉えつつ『生徒だけでなく、自分の生き方まで考えさせられるというふうに思っています。』と述べています。考えさせられると言っても必ずしもポジティブではなく『自分が先生になってやろうと思っていたこととどんどん離れていっているような気はします。』といった声です。

何より大きな不安であったのは、負担が増えることに対するものです。

『やらなければっていうことはわかるんだけれど、結局、負担が増えてるじゃない？先が見えている人たちはそれでも大丈夫かもしれないけれど、それを受けながらやっている人たちの方が大変じゃないかって思います。なんとかかんとかこなしてはいるんですが。もちろん、やらなきゃいけないってことは分かってます。』

こうした発言は複数人から聞こえてきました。

（３）新しい流れが生まれるきっかけになったのは生徒の姿

こうしたことの風向きが変わったきっかけの一つが探究weekにあったと思われます。特に、そこでの生徒の姿に対してのコメントが大きく聞かれました。

『［探究についてどう思いました？］驚きました。［驚きました？どんなところがですか？］表情が一番です。その表情を見て、授業とかではこういう顔だろうって勝手に思い込みがあったんです。でも探究の時の生徒の発表を見て、こんなに生き生きする時があるんだって。［やっぱ全然違いました？］全然違います。何なんでしょうね。好きなこと喋ってるからですかね』

『［どんな話されたんですか？］〇〇の話をしました。［生徒の皆さんはどんな感じてした？］生徒たちはおーって感じて聞いてました。なんかスイッチ入ってるなーみたいな感じで。［何か工夫したりされたんですか？］完全に「興味を持ってもらいたい」ってのをベースに考えた感じです。』

『生徒たちに関しては思いのほかちゃんとやってるって。［見方変わったみたいな感じですかね］変わりました変わりました。もともと知らない人達とであっても、その中でちゃんとコミュニケーションをとってて。それなりにやってくれてるってことだけでも、それだけで驚いたし、嬉しかったです』

こうしたコメントのように、それまでとは違う自分の関わり、生徒の関わりを目の当たりにして、そのことが先生方に新たな気づきをもたらした可能性は高いと思われます。前述したように、自校の生徒たちの能力に限界があると思っていた（それゆえにアクティブラーニングなども無理だと思っていた）という発言もありましたが、そうした認識に変化を生じさせるきっかけになった可能性があります。

ただ、もちろん、全てが良かったというわけではないでしょう。以下のようなコメントも聞かれました。

『探究っぽいことをどうやって後押しするのかっていうのは本当に難しかった。本当に喋るのが苦手な子とか、絶対嫌だっていう子もいるわけじゃないですか。そういう子たちに対してどうしたらいいんだろうって（わからなかった）。やんなさいって迫るという話でもないじゃないですか。やって欲しいんですけど、やんなさいって言うんじゃダメなんですよね。だから、やるように仕向けたい。あ、仕向けるのもいけないか。』

という意見にあるように、やはり戸惑いはあったということが分かります。探究についていかにモチベイトするのか、といったことは誰も答えを持っておらず、簡単にできることではなく、また、誰もが直面する課題でもあります。これは、裏返せば教員集団にとって共通の話題にしやすいということでもあります。こうした点についてこそ、校内でトライアンドエラーをしたり、相談をお互いに繰り返したりしながら知見を蓄えるようなことを進めても良いのではないでしょうか。学びあう仲間づくりにつながる貴重な問いであると言えます。

さて、こうした意見や悩みがありつつも、2021年度の後半あたりから、全体的には変化の胎動が感じられるようになってきました。

（４）２０２２年度夏まで

2022年度に入ってからは、変化に対してポジティブな反応が増えてきます。例えば、次のような言葉が聞かれるようになってきました。

『（色々なことが変わって）良かったなと思っている人は前に比べると増えている気がします。っていうのも、前は、みんな分からなかったんですよね。（どうなるかってことがですか？）はい、どんな感じになるか、分からなかったと思います。今も分からないことはありますが』

実際に新しいカリキュラムが実施されたり、新しいコースに対して入ってきた子たちがおり、その具体的な姿を見て、地に足をつけて変化を受け止めることができるようになったのではないかと思います。

『目的意識を持って入ってきてる子多いのかなとは思いますけど。やりたいことが明確な子も結構、見受けられたので、最初のやりとりで。』

『新しくやっていることの影響かは分からないけれど、1年生は授業でも男女の隔たりなくしゃべれていると思います。逆に、2年生以上は変わる前の段階だったんで男女間しゃべんないです。女子同士もそんなに仲良くないし』

というような発言もありました。

こうした印象の変化とともに、実際に、それぞれの先生の実践自体も少しずつ変わってきている様子が見て取れます。

『授業中もペアワーク等は入れるようにしてます。2人組でやるんですけど、ちょうどみんなが共通で理解できているか、できていないか、というぐらいのタイミングでやるとお互い説明したり質問しあったりしながらやれるように思います。あとは、〇〇得意な子もいるので、発展的な問題をやって振り返らせたり、あとは問題を作らせるような取り組みもしています』

『スマホは使わせるようにしています。動画見るタイミングとか作ったり』

『授業に関してはスマホは毎回、使わせてます。あとGoogle使って（スライドや文章等）作らせるとかもしてて、いい意味で楽になりました。ほとんど子どもたち寝なくなりましたしね。見て触ってこうやって書くだけでも、好きですからね。』

『積極的に生徒に説明させてます。生徒に説明してって言えば、結構うまく説明するんですよ。』

といったように、先生方の言葉の端々に新しい実践にチャレンジしていることがうかがえるようになりました。こうした変化はまだ一部に止まります。また、これらの実践が本当に狙いとしている子どもたちの力を伸ばしているのか、と言ったことは深く考える必要がありますし、さらなる授業改善を進めていく必要があることは間違いありません。とはいえ、そうしたように前向きなベクトルで変化が生じ始めていることが大きいと言えるでしょう。

以上のように、専修大学北上高校はこれまでの取り組みの結果として、前向きな変化が着実に起き始めている段階と言えるでしょう。

今後は、こうした動きがより力強く、そして、持続可能になるように考える必要があるでしょう。

３．提言：今後さらに力づよい変化に向けて

（１）授業改善を点から面へ

前述したように、今は少しずつ個々で授業改善が起きています。しかし、こうした動きが学校全体でより力強く起きてくる必要があるでしょう。そのためには（研修でもお話しましたが）図２のような動きが生じてくることが求められます。

これまで、シラバスや評価のやり方、ICTに関わる件など、どちらかといえば組織的な判断のもとに導入されてきたものが全体に伝えられ、変化のきっかけになってきた側面があります。こうした上からの流れに加え、ボトムアップの動きがあることが変化を力強いものにすることができます。

個人の改善が組織的な動きにつながっていく過程は、教員同士の学び合いによって生み出されていくと考えられます。つまり、個々人の工夫などが学び合いを通じて共有され、全体としての改善につながるという流れです。

こうした教員同士の学び合いについては、各教科や一部の教員の中で少しずつ起きつつあります。例えば

『評価のつけ方については、他の先生たちと話したりしますよ。こういう取り組みをすると評価しやすいとか、どんな風にメモるとか』

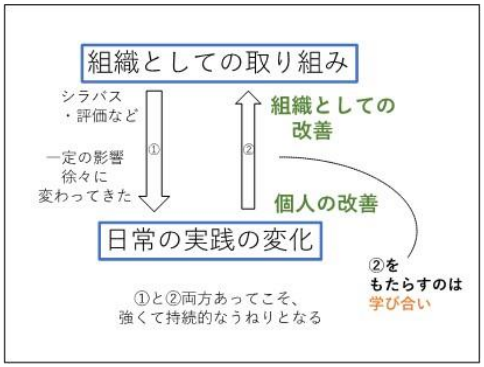
といった話もありました。

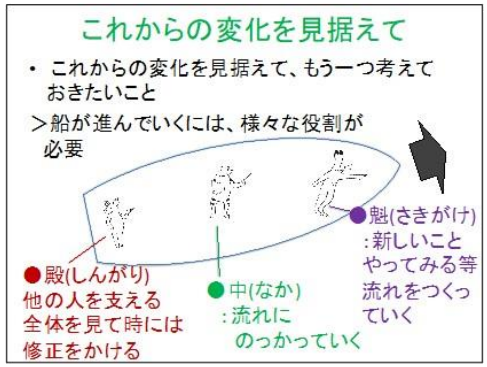
しかし一方で、そうした横のつながりが全くないという認識の方もいます。

『これからの実践を考える時、ゴールとか目的とかは言葉としては言われているけど、それがうまくいかない時にどうするのかとか、それが実態に合わない時にどうするのかとかを話し合ったり協力して修正できる場がないんですよね。横のつながりがゼロなんです』

こうした認識は人によってバラ付きがある。実際、教科やその人がおかれる場によって状況は異なると思われる。こうしたことを満遍なく整備し、ボトムアップでの改善の流れをつくることがこれからやるべきことなのかもしれません。実際、上述の横のつながりがないとの発話も、それを求めるコメントであるとも捉えることができます。

具体の実践について話し合い、相談できる関係と場をつくること。そうしたことを個々人任せにするのではなく組織的に後押ししていくこと。こうした動きが今後必要になると考えます。





（２）参画の場をつくること

今年度に入って前向きな動きが強くなってきたと述べました。しかし、こうした印象はそれぞれの個々人によってかなり異なっています。引き続き混乱に対する不安も生じています。

また、引き続き混乱が生じている部分もあります。

『（今年度の変化について）手応え的なものはまだ分かりません。担当している側もわかってないことが多いです。全体的にもやもやしていて、最近何をしなきゃいけないかとか、私が何を大事にしたいのかっていうのが見えなくなっています。』

『変えていくこと自体には大賛成なんですけど、どこがどう引っ張ってくれるのかっていう不安があります。誰について行けばいいのか分からず、結局個人個人がそれぞれやってバラバラになっている部分もあります』

変革期にはどうしても見通しが全てクリアになって前にすすめるわけではありません。また、どんな方向性であってもすべての人が同意してくれるというようなことはありません。そうした中で前に進みつつ、一方で不安をできるだけ解消していくには、舵取りをする側への参画の度合いを増し、推進する側との心理的な距離感を近づけていく必要があるでしょう。

例えば、前述した思いも、参画できていないことから生じている部分もあるでしょう。例えば、

『最近はトップダウンでいろんなこと変えてっちゃって、現場の声とか現場の状況が見えてないって感じています』

という声もあります。尖った言葉であるように見えますが、一方で、こうした考えを持つ人は同時に現場の状況を「伝えたい」と思っている人でもあります。様々な人が学校改革に参画できるような場をつくることで、こうした先生たちを巻き込んでいくことが重要と思われます。

また、そもそも、変革が力強く進んでいくには、図３で示したようなそれぞれの役割をする人がバランスよく存在する必要があります。

図3

これまでの専修大学北上高校を見ていると、全体のバランスに対して「魁」をつとめる人材のバランスが少ない教員があります。多くの教員が「中」として流れにのることはしていますが、その動きを積極的に進めていこうとする人材が少ないように感じられます。

これからの方向性についての意思決定に関われる人を増やす、あるいは、関われる場を増やすなどして、各教員の改革の推進に対する参画の度合いを高め、魁の人材を増やしていくことが今後必要になるのではないでしょうか。

今後のキーワードは教職員同士の「学び合い」と、各教職員の「参画」であると考えます。